

平成30年 2月

河月稔 学位論文審査要旨

主 査 廣 岡 保 明

副主査 花 島 律 子

同 浦 上 克 哉

主論文

Comparison of olfactory and gustatory disorders in Alzheimer's disease

(アルツハイマー病における嗅覚障害と味覚障害の比較)

(著者：河月稔、鈴木哲也、長野真弥、中村将太、勝俣雄登、高村歩美、浦上克哉)

平成29年 Neurological Sciences DOI:10.1007/s10072-017-3187-z

参考論文

1. Cerebrospinal fluid biomarkers of Alzheimer's disease are associated with carotid plaque score and hemodynamics in intra- and extra-cranial arteries on ultrasonography

(アルツハイマー病の脳脊髄液バイオマーカーは超音波診断装置で評価した頸動脈プラークスコアや頭蓋内動脈および頭蓋外動脈の血行動態と関連する)

(著者：河月稔、長野真弥、鈴木哲也、勝俣雄登、中村将太、高村歩美、浦上克哉)

平成29年 Journal of Clinical Neuroscience DOI:10.1016/j.jocn.2017.12.006

審 査 結 果 の 要 旨

本研究はアルツハイマー病（AD）、軽度認知障害（MCI）、認知機能障害のない者（HC）の3群間での嗅覚検査や味覚検査の比較、および脳脊髄液バイオマーカーや認知機能障害と嗅覚検査や味覚検査の関連性を評価したものである。その結果、認知機能の低下とともに嗅覚障害および味覚障害が生じる事が示された。さらに、味覚機能と比較して嗅覚機能は脳脊髄液バイオマーカーと関連性を認めたことに加え、MCIの段階から機能低下を示したことより、AD病態の早期から低下することが判明した。本論文の内容は、ADにおける嗅覚障害と味覚障害の関係性を詳細に調査した研究であり、ADでは味覚機能より嗅覚機能が先行して低下することより嗅覚検査がADの早期診断に有用である可能性が示唆され、明らかに学術水準を高めたものと認める。